

平成 28 年 2 月 24 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 4 回「放射線教育」特別専門委員会
開催日時	平成 28 年 2 月 20 日(土) 13:00~16:00
開催場所	航空会館 202 会議室
参加人数	14 名 中村主査、池本幹事、飯本委員、掛布委員、川合(秀)委員、川合(将)委員、 関東委員、工藤委員、嵩田(太)委員、高田(千)委員、高島委員、三好委員、 渡邊委員、荒井書記
議 事	<p>1. 前回委員会議事録の確認 2ヶ所記述修正のうえ承認。</p> <p>2. 文科省宛て報告書最終案の検討 1章(概要)と9章(今後の進め方)を中心に検討・意見交換を行った。池本幹事 が27日までに本日の議論を踏まえ最終化する。 2章から8章までは各執筆担当委員が最終的に見直し、修正点あれば池本幹事 に27日までに通知する。池本幹事が全体を2月末を目途に最終化する。</p> <p>3. 今後の取り組み F/S との位置づけの今年度事業に続きシステム構築・設計へと進む来年度以降 の事業計画について、今後協働できるパートナー機関について検討中であるこ と、また、事業の協力を北大に打診中であることを池本幹事より説明し、さらに 実際に2,3の機関から協働について POSITIVE な感触を得ていることも報告あつ た。 関東委員から、これから構築していく人工知能を使った学習システムについて 説明があり、質疑等を行った。</p> <p>早急に協働するパートナーの目途をつけ、学会理事会で承認を得たうえで、来年 度の事業として文科省へ応募する。</p>
備 考	

平成 27 年 12 月 24 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 3 回「放射線教育」特別専門委員会
開催日時	平成 27 年 12 月 20 日(土) 13:00~15:30
開催場所	多摩大学大学院品川サテライト 会議室
参加人数	17 名 中村主査、池本幹事、飯本委員、岡元委員、掛布委員、川合(秀)委員、川合(将)委員、関東委員、木藤委員、工藤委員、佐々木委員、高田(太)委員、高田(千)委員、高島委員、三好委員、渡邊委員、荒井書記
議 事	<p>1. 文科省宛て報告書の構成・内容 コンテンツ作成ワーキンググループ(WGA)、学習システムワーキンググループ(WGB)の現時点での報告書(中間報告書)の内容につき夫々のグループ主査より説明があり、内容に追加すべき点等意見交換された。</p> <p>2. WGA 並びに WGB 中間報告書 WGA、WGB 中間報告書の各項目の執筆担当委員から内容説明があり、質疑と意見交換を行った。</p> <p>3. 放射線教育オンライン双方向学習システムの対象者 別討議している WGA と WGB とで、想定している対象者に開きが出てきていた。また、委員レベルでも誰を対象とするコンテンツなのか、システムなのか、夫々思うところが一致していないので調整が必要。両グループの主査、事務局で検討することになった。 原子力人材増加に資する学習システムの提案であるので、大学、大学院で専攻している者(原子力人材)ではなく、これから専攻を決める高校生とそれ以前の中学生並びのその教育者、保護者が本学習システムの主たる対象となるというのが大方の委員の考え。</p> <p>4. 次回委員会スケジュール決定 第 4 回委員会を 2 月 20 日(土)に開催し最終報告の纏めを行うことを再確認した。</p>
備 考	

専門委員会開催報告

専門委員会名	第2回「放射線教育」特別専門委員会
開催日時	平成27年8月29日(土) 10:00~12:30
開催場所	多摩大学大学院品川サテライト 会議室
参加人数	15名 中村主査、池本幹事、飯本委員、岡元委員、掛布委員、川合(秀)委員、川合(将)委員、木藤委員、工藤委員、佐々木委員、高田(太)委員、高田(千)委員、高島委員、三好委員、坂本講師
議 事	<p>1. 招聘講師による講演</p> <p>日本ソフトウェアエンジニアリング(株)坂本氏により、「放射線教育におけるオンライン学習システムの活用」の講演が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E-learning は On-line 学習、Off-line 学習、アクティブラーニング、ICT 教育を含めた幅広いものであること、 ・コンテンツ作成は、対象者、場所、時間などを特定して作成すべきであること、 ・Webアプリとクライアントアプリとの相違点、 ・Off-line と On-line との併用により可能性が高まること、 <p>が説明された。</p> <p>2. 高島委員による「放射線教育に対する要望の変化」についての講演</p> <p>放射線教育の現場経験を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射能に関する全方向教育ではなく、部分的でも良いのではないか、 ・効率よりも効果を重視してコンテンツを作成する方が良い、 ・放射能教育に防災教育も含めてはどうか、 ・見せる、意欲を掻き立てる工夫が必要、 ・Positive 情報も必要 <p>という見解が提起された。</p> <p>3. 自由討議等</p> <p>自由討議では双方向性の具体化が論議され、Virtual 教育、Network を通しての教育も双方向に含まれるであろうとの意見が出され、最後にコンテンツ、システム全体として学習コースのデザインの重要性が認識された。</p> <p>4. 次回委員会スケジュール決定</p> <p>第3回委員会を12月20日(日)に開催し中間報告を、第4回委員会を来年2月20日(土)に開催し最終報告の纏めを行うこととした。</p>
備 考	

平成27年8月21日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第1回「放射線教育」特別専門委員会
開催日時	平成27年7月24日(金) 10:00~12:00
開催場所	日本原子力学会 会議室
参加人数	14名 中村主査、池本幹事、掛布委員、川合(秀)委員、川合(将)委員、 工藤委員、佐々木委員、高田(太)委員、高田(千)委員、高島委員、三好委員、 保田委員、渡邊委員、荒井書記
議 事	<p>1. 本委員会の目的</p> <p>中村主査より、「文科省より補助金を得て、原子力人材育成推進事業として放射線教育副読本の理解と放射線への興味を持たせるための、双方向性に配慮したON-LINE学習システム検討などのFSを行う」ことが本委員会の目的であるとの説明がなされた。</p> <p>2. 「副読本の理解を促進する学習システムの検討・整備」事業の説明</p> <p>池本幹事より、事業概要、事業達成目標、事業計画、スケジュールなどの説明。特に、双方向性を考慮した学習システムをどのように作成していくか、また、当学会の専門家のみならず他の専門機関とも提携し機関横断的な事業として進めて行くことが重要と補足説明。</p> <p>3. 委員会の構成等</p> <p>具体的検討組織として委員会の中に、「副読本WG」と「オンライン学習システムWG」を作り委員を振り分けた。前者は中村主査が、後者は池本幹事がグループ長となる。それぞれのグループの検討状況は議事録に纏め双方で検討状況を共有する。</p> <p>4. 放射線教育の実情等</p> <p>放射線教育への時間割り当てが限られている学校教育では限界があり、従って学校から離れた時間にPC、タブレット、スマホなどで自由な時間に学習できることが必要となる。この場合でも、生徒達への先生の指導がポイントになる。</p> <p>5. 次回委員会</p> <p>放射線教育の実情や学習システム検討に際し考えておくべきことなどを、教育経験のある委員から次回委員会で説明を受ける。次回は8月29日に開催する。</p>
備 考	